

## 5月25日・総会の開催に先立ちホームページ上の総会議案についての質疑応答

### 質問、意見 1

数年前に比べ会員の絶対数が激減して居ますが、其に比例してか肝心の部会活動、即ち姉妹、文化、ホームステイ等の主流各部会の活動が殆どなく、従って補助金額も低減一途です。

上記の回答は次の通りです。

#### ① 過去の個人会員数の推移は次の通りです。

2019年度 701名、2020年度 547名、2021年度 493名、2022年度 551名、2023年度 576名。2020年度コロナ禍の影響で、約20%減少し、その後徐々に回復し、2024年度は、5月時点で600人を超えました。外国人勧誘と日本語学習支援ボランティア増加等で会員増加を図ります。

#### ② 姉妹都市、ホームステイ部会の活動

姉妹都市交流部会の事業姉妹都市オーランド市への親善旅行「友好の翼」は、2020年2月に実施したのが最後で、今回2025年2月に再開を予定しています。今回の事業は、姉妹都市提携35周年記念で実行するものです。

またDRフィリップ高校生も30人、11月に来日で、このホームステイは一大事業となります。これもコロナ禍が明けたタイミングで実施されるものです。その他ホームステイ事業については徐々に回復していますので、相応な準備を検討しています。

#### ③ 文化交流部会の活動

コロナ禍から脱却し、以前のイベントの多くが復活していますが、2023年度は在日大使館講演会については、日程調整が出来ず、不発となりました。2024年度は、新役員の下で、さらに部会のイベントを活発化できるものと考えています。

#### ④ 補助金の推移

2020年度 460万円、2021年度～2023年度 368万円、2024年度 414万円、過去、ディズニーランドの収益減少に伴い、市の財政上補助金は一律20%減額となり、そのまま3年経過し、2024年度は、事業の復活を反映し、50万円の増となった。但し、友好の翼については、補助金の増額の対象とはされていない。今後の検討課題である。

## 質問、意見 2

上記の下で、何故か交流活動とは別に本部経費のみが連年増加しているのは何故ですか？

本部経費の推移については次の通りです。

2020年度 479万円、2021年度 405万円、2022年度 488万円、2023年度 455万円となっており、必ずしも連年増加しているわけではありません。

## 質問、意見3

最近のUIFA ニュースを見る限り、20年前とほぼ同じイベント紹介の編集内容です。国際交流、多文化共生について、もっと根源的な問題を検討し、それをベースに将来の活動等を話題とした記事があってもよいと思います。過去のイベントにとらわれることなく、自由闊達な先進的な発想を記事にしてください。10年先20年先を見通して 市民、国民レベルでの国際間の平和的な交流の再来に備え、色々検討すべき時期ではないか？

回答は次の通りです。

漠然としていますが、前向きな提案です。常に将来を見つめて、UIFAのビジョンを設定し、それに基づいて活動することが大切と考えます。関係機関、ほかの先進的な国際交流協会の活動を参考にして、衆知を集めて検討すれば、当協会の将来が見えてくるかもしれません。現在 UIFA 改革プロジェクトを立ち上げ改革に取り組んでいます。

以上